

**令和6年度第3回岐阜市公立大学法人評価委員会
議事録 概要**

【日 時】 令和6年10月22日（火）13時30分～14時45分

【場 所】 岐阜市役所 6階 6-2 会議室

【出席者】

（委員）加藤 義人委員長、小林 宏委員、棚瀬 友啓委員、長合 孝司委員
＜欠席＞ 長谷川 洋一委員（委員長代理）

（岐阜市）若山企画部長、山本企画部次長、

田中企画部総合政策課大学改革推進室長 他

（岐阜薬科大学）原学長、杉原薬科大学事務局長、久富大学法人化推進審議監 他

1 開会

2 議事

- ◆岐阜市公立大学法人の中期目標（案）について
（事務局から資料に基づき説明）

○加藤委員長

- ・説明のあったとおり、今回の中期目標（案）は、前回の素案に対して皆様から頂いた意見を反映し、更に庁内会議での協議を経て作成されているものである。中期目標については今回が意見を頂く場として最後となる。改めて意見があれば伺いたい。
- ・本日ご欠席の長谷川委員から事前に意見の提出はあったか。

○田中大学改革推進室長

- ・長谷川委員から事前意見を頂いているので代読する。
「特にコメントはない。これまでの議論を反映頂いていると思う。」
以上である。

○加藤委員長

- ・私も長谷川委員と同様の印象を持っており、前回議論については丁寧に検討、対応いただいていると思う。内部の会議も経ているとのことである。委員各位から特段の意見がなければ、本案をもって了承することとしたいが、よろしいか。

○小林委員

- ・文科省では「薬学教育指導者のためのワークショップ」などのワークショップが開かれており、各大学の教員が出席して既に様々な話し合いが行われている。

るとのことである。こうした今の薬学教育の現場の意見を反映するため、中期目標にも教員の意見を入れた方がより現実味のある内容になると思うが、どうか。

○加藤委員長

- ・学内の意見は反映されているのか。

○原学長

- ・反映している。学内でも法人化に係るワーキンググループを作っており、まずそこでしっかり議論し、教授総会の了承を得て今回ご提出している。

○加藤委員長

- ・承知した。この後の中期計画は、薬学教育の現場の先生方による重層的な議論を経て検討されているということなので、皆様ご承知おきいただきたい。

○田中大学改革推進室長

- ・補足として、中期計画もちろんであるが、市が作成する中期目標においても、学長をはじめ薬大の先生方の意見を聴きながら作成しているので、ご承知おきいただきたい。

○加藤委員長

- ・承知した。他に特段の意見がなければ、中期目標については本日提示された案をもって了承することとしたい。(委員了承)

◆岐阜市公立大学法人の中期計画（概要案）について
(事務局、薬科大学から資料に基づき説明)

○加藤委員長

- ・説明のとおり、中期計画は、先ほどご了承いただいた中期目標を達成するための計画として法人が作成し、岐阜市長の認可を受けて定めるものである。評価委員会においては、今後、この計画に盛り込まれた措置の達成度を基に法人の業務実績の評価を行うこととなる。そうしたことをご承知おきいただいたうえで、本日提示された概要案について、質問や意見をいただきたい。
- ・最初に、長谷川委員のご意見を紹介願いたい。

○田中大学改革推進室長

- ・事務局からご紹介申し上げます。
「中期計画の概要案について概ね妥当なところと考えるが、確認事項の他に、

指標に関していくつか提案を考えてみたので、以下をご確認いただきたい。

確認事項として、

- ・数値指標については、6年間の年次推移を示すのか、それとも平均等で示すのか。前者との理解であるが。
- ・「人材を育成する」項目として【1】【3】【5】【15】【41】等がある。どれも素晴らしいが、目標に達成したかどうかは、どのように判断するイメージか。例えば、【41】新しい価値を創造する力、高い意識を持った人材が育成できたかどうかの評価は難しいのではないかと感じる。
- ・【2】「定期的に検証する体制を整備」とあるが、「定期的」のスペンはどの程度を想定されているか。関連して【61】定期的な自己点検・評価の実施については、7年毎の外部評価を想定されているのか。ここでの「定期的な」のスペンはもう少し短いイメージだが、どうか。
- ・【13】教職員の意欲が向上したかどうかを測ることは難しいと感じるが、間接的な指標としては学生からの授業評価アンケートを活用することも考えられるがいかがか。

意見として、資料に示された数値指標以外にいくつか想定できそうな項目について以下に掲げる。

- ・【16】イベント等への教職員の派遣について、派遣参加実績が数値指標にもなり得るのではないか。
- ・【22】規範遵守の周知徹底は、講習会の開催や受講者数などが数値指標としても可能ではないか。
- ・【25】発信の状況は実績が指標になり得るのではないか。
- ・【30】ガイダンスなどの開催数が数値指標としても可能ではないか。
- ・【31】目標には、「啓発」とあるので、講習会の開催数が数値指標にもなり得るのではないか。
- ・【32】「人権侵害行為を防止」は、【31】同様に啓発に依存するところがあると考えるので、ガイドラインの説明・周知を含む講習会等の開催数、受講者数が数値指標になり得るのではないか。
- ・【34】「審議会委員数」は、「審議会委員への参画数」としてはどうか。
- ・【36】年次の岐阜市、地域病院等への就職率が数値指標になり得るのではないか。
- ・【52】「意識の徹底を図る」については、研修会の開催数や参加者数が数値指標にもなり得るのではないか。
- ・【57】寄附金の件数及び総額も数値指標になり得るのではないか。
- ・【58】志願者数、入学者数の年次推移が数値指標にもなり得るのではないか。
- ・【63】「広報媒体を選択」「発信」は、実績が指標になり得るのではないか。

以上である。

○加藤委員長

- ・確認事項についてご回答があれば伺いたい。

○久富大学法人化推進審議監

- ・薬大から回答申し上げる。一つ目の数値指標については、中期目標期間の6年間で達成するための数値指標として、最終年度の指標を示す予定である。
- ・人材育成に係る項目の目標達成の判断基準について、こうした定性的な措置内容については、期間内における法人の取組を評価委員会に報告することにより評価いただくものと考えている。
- ・「定期的」の想定スパンについては、学内に設置している自己点検・評価委員会及び教務委員会の毎年度の評価と、外部評価として受審している7年度ごとの大学認証評価と薬学教育評価を想定している。外部評価は7年度ごとだがいずれも実施年度が異なり、直近では、大学認証評価は令和2年度、薬学教育評価は令和4年度に受審しているため、今回はそれぞれ7年後に受審することになる。
- ・教職員の意欲向上に係る授業評価アンケートの活用については、直接的な回答ではないかもしれないが、薬大では学生に対し定期的に講義や教材等についてのアンケートを実施しており、その結果を教授総会に報告し、教員がよりよい講義を行うための参考としているため、これを継続して取り組みたい考えである。
- ・数値指標に係るご意見は参考にさせていただき、他の指標とのバランス等も踏まえ、中期目標や中期計画の達成状況を評価する指標として追記すべきかをまず学内で検討し、市とも協議して考えてまいりたい。

○加藤委員長

- ・今のご意見とご回答に関し、他の委員からご意見はあるか。
- ・確認事項の4点目について質問だが、学生アンケートとは別に教職員を対象としたアンケートは実施しているか。

○原学長

- ・教職員に対するアンケートは実施していないが、教授総会で互いに議論し、意見交換する場はある。

○加藤委員長

- ・実施してほしいと申し上げたいわけではなく、【13】の論点は、教職員の意欲向上を目標としてそのモニタリングをしていかなければならず、それをどのように行うかということである。そのため安直に考えると、教職員にアンケートを取り、結果を定点観測するというがあり得るのではないかと思った次第

である。民間企業の場合はよく従業員アンケートで意欲の程度を計測しているが、それが大学になじむかは別問題なので、一概に実施を求めるわけではない。しかし、教職員の意欲向上を測るには、学生アンケートから何かをつかみ取ろうとするよりも、もう少し直接的な手当てを考える必要があるのではないか。例えば、教職員から提出された提言や改善提案の件数も考えられる。

○原学長

- ・ご指摘はごもっともである。全教員に対して私自身が最低でも年 2 回は面談を実施し、そこで上がってきた提案・提言や問題点は経営委員会において状況の把握や対策の検討を行っている。アンケートは自由記載的なものかと思うので、面談における実績等を含めた報告がそれに該当するかと思う。

○加藤委員長

- ・このやり取りを踏まえてまたご検討いただきたい。
- ・それでは、長谷川委員から頂いた確認事項に関してはここまでとし、ご意見についてはお預けして検討いただくことでよいか。(事務局、薬大了承)
- ・それでは、この他にご出席の委員からの意見を賜りたい。

○小林委員

- ・5 ページの「研究力の向上」の箇所について、数値指標に「原著論文数」とあるが、重要なのは数ではなく内容である。邦文だと日本でしか読まれないため、英文なのか邦文なのか、またジャーナルによっては査読などの掲載基準が厳しいものもあるため、どのジャーナルに投稿したかといったことを分けたほうがよいのではないか。

○原学長

- ・先ほど申し上げた面談の際、教員からの報告書に論文の言語やインパクトファクター等も記載されている。ご提案のベースとなるデータはあるが、あまり詳しく書きすぎるとわかりにくいかもしれない。

○加藤委員長

- ・数値指標を細かく設定することは目標の意図に沿わない場合もあるかもしれないが、総数を指標としつつ、その内訳も継続的に観測してもよいかもしれない。

○小林委員

- ・今の点について、目標ではなく結果の記載かと思って申し上げていた。目標であればそこまで詳しく記載する必要はない。

○棚瀬委員

- ・【4】の学部教育の箇所に医療薬学コースと創薬育薬コースがある。私立大学等と比べると薬大は創薬育薬コースをかなり前面に押し出している印象だが、数値指標が薬剤師国家試験の合格率だけとなると、創薬育薬コースの評価はどうやってやるのか。今や大学においては合格率が1丁目1番地で、一般市民からするとそれが大学の評価であるかのようなイメージがあるが、その辺りに何らか付け足してはどうかと感じた。
- ・8ページ【34】の「地域課題の解決等への貢献」について、先日学長とも対談させていただいたが、へき地、過疎化地域においては薬剤師が非常に不足し医療を継続するのも難しいという状況がある。6年間の中期目標であるので、そうしたことへの対応もおわせるような内容を盛り込んではどうか。
- ・先ほど小林委員が論文について仰ったが、【37】で岐阜大学附属病院や岐阜市民病院と共同研究等を推進しているということなので、ここにも数値指標として論文数を入れてはどうか。
- ・少し具体的ではないかもしれないが、新聞記事に国立大学独法化による良い点と悪い点のアンケートがあり、悪い点として、運営費交付金の減額や教職員の事務作業量の増加、教職員の安定雇用の問題などが挙げられていた。このようなことを前もって手当てするような考えはお持ちか。

○加藤委員長

- ・まず一つ目の【4】創薬育薬コースの評価に係るご指摘についてはどうか。

○原学長

- ・薬剤師国家試験については、コース毎にカリキュラムの差別化をしていない。そのため、ここを分けてもどちらの方がよい、悪いといった評価にならないため、現時点では合格率を比較することは考えていない。両コースは研究で区別されており、国家試験に関しては教育内容が一緒であるため、反対に差がつかない方がよい。コースは成績によって決まるものではなく、学生が自由に選択することができ、今はちょうど半々ぐらいの人数になっている。

○加藤委員長

- ・二つ目の【34】は、「地域課題への解決等への貢献」においてへき地対応も念頭に置いていただきたいという話だったかと思う。ここの指標には、長谷川委員から「審議会『参画数』」としてはどうかとのご指摘があったが、棚瀬委員のご意見はこれとは別の指標を置いてはどうかということか。

○棚瀬委員

- ・「地域課題の解決等への貢献」ということなので、岐阜県であれば山間部や東濃地区において、いわゆる偏在化により薬剤師が足りないという状況があるため、そうしたところに薬剤師を輩出することも念頭に置いて教育をしていただけないかということである。学生のうちに過疎地域での現場実習などを体験すると、非常に気づきがあり、そうした地域に係る取組への熱意や就職にも繋がると言われているので、そのようなことも視野に入っているか、という質問である。

○加藤委員長

- ・お話を伺うと、【36】の薬剤師の人材輩出の箇所へき地対応の観点も含まれているかという指摘のように思う。箇所も含めて検討いただきたい。
- ・【37】については、講座だけではなく共同研究の論文数や活動実績も指標としてはどうかとのご意見だと解したが、大学からはご発言あるか。

○原学長

- ・最初の、へき地における地域偏在の問題は喫緊の課題であり、薬大だけでは解決できない国の課題である。そのため、何を行うかを今すぐには申し上げられないが、何も対策をしていないわけではなく、文科省の指導の下、学生に岐阜市外の偏在化地域へ行くチャンスを与えている。通常のカリキュラム+αで実施しており、国と連携してやり方を検討していくつもりである。こうした問題について、学生に興味関心や意義を感じてもらうための教育は必要だと考えているが、強引に学生を送り込むわけにはいかず、何人行ったからよいという数値指標を置けるものでもない。そのため、この項目については、薬剤師を偏在化地域へ輩出していけるような方向性を模索していきたい。国の大きな課題であるため当然視野に入れていきたいが、目標は立てづらい。
- ・共同研究等の論文数についてはデータがあり、学内のみの研究か、他企業との共同研究か等も含まれているが、指標にどこまで書くかは検討したい。共同研究は幅広くやっていたいかなければならないので、あまり細分化しすぎるのもよくない。共同研究が推進され、その成果が地域に派生していくことが大切であるため、そういう観点で検討したいと考えている。

○加藤委員長

- ・得心の行くご説明だった。共同研究の活発化は地域において重要であるが、それが生む成果の高さは更に一ランク上の目標であると思う。そこを分けることも含めてご検討いただきたい。

○長合委員

- ・ 11 ページの「弾力的かつ適正な人事制度の構築及び運用」に、教員に対して裁量労働制の勤務形態を導入するとある。昨今の働き方改革においてこれは非常に素晴らしいことである。指摘ではないが、これは全教員に対してと考えてよいか。

○原学長

- ・ 本学における全教員である。全教員とは、助教、助手、講師、准教授、教授のことである。

○長合委員

- ・ 承知した。おそらく裁量労働制の勤務形態となると、教員に対する管理体制の整備は非常に難しいのではないかとと思うが、裁量労働制の勤務形態の導入に関して私は賛成であり、非常に良いことだと思っている。

○加藤委員長

- ・ 勉強不足で恐縮だが、裁量労働制の勤務形態となった場合、裁量労働の成果を測って評価することになるのか。

○原学長

- ・ 裁量労働制の本質は、9時5時のパターンではなく、都合に合わせた労働ができるところにある。教員は遅出・早出となることがあるため、フレキシブルな対応が大切であることから、この制度を導入することとしている。この評価方法については、先ほど申し上げた年2回の成果評価をきちんと行い、更に5年ごとに外部評価委員も入れて、その人の成果を客観的に測っていくつもりである。評価は定量化されており、今後は裁量労働制による成果も測っていきたいと考えている。

○加藤委員長

- ・ 承知した。
- ・ 私からも意見を述べさせていただく。概要なのであまり細かいことを申し上げるタイミングではないかもしれないが、この段階でお伝えした方が検討に含めることができるかもしれないので、間尺に合わないことを申し上げるかもしれないがご容赦いただきたい。
- ・ 全体として、文末が「整備する」「構築する」「導入する」となっている箇所がいくつもあるが、これは6年間で整備・構築・導入すると読めばよいか、あるいは時期をあらかじめ設定しておくのか。そこが評価の際に関係すると思われるため、定量的な指標を設定されていないところについて、そのタイミング

やロードマップを次回ご提示いただけると有難い。

- ・ 逐条的で恐縮だが、2 ページの【1】について、目標では「グリーンファーマシーの理念の下…社会に貢献できる薬学人材を育成する」とあり、計画では「実践的な能力及び課題発見・解決能力を身につけ、ファーマシスト・サイエンティストとして」とある。少しレベルの食い違いがあるように思う。「イ」では目標が課題発見・解決能力を持つファーマシスト・サイエンティストと位置付けられているので、平仄をご確認いただきたい。
- ・ 3 ページの大学院教育について、目標では「地域医療と地域住民の健康の増進に向けて」とあるが、計画がこれを受けたものとして読めるか、という観点でご検討いただきたい。
- ・ 4 ページ【15】に「大学発ベンチャーの創出に向けた支援体制を構築し」とあり、ここは冒頭に申し上げたいつまでにということを考えなくてよいかという指摘にも該当する。同時に、随所にある「体制を構築する」という表現について、目標の進捗チェックのとき、それが何を指しているかを共有しておく必要があるのではないか。例えば「体制」と言っても学内に組織を作るという場合もあれば、担当を置くという場合もあれば、委員会的な組織を作る場合もある。あるいは、そうした組織ではなく仕組みをもって「体制」という可能性もある。そのため、「体制」がそれぞれの箇所では何を意味しているかを共有できるような中期計画となるのが望ましい。
- ・ 5 ページ【21】は、目標で「新たな価値の付与から新製品の開発まで」とある。これを計画化したときに、「知見の提供や専門的な機器等の貸出等」で十分に受けられているか。これ以上文章化することが難しければそれでよいが、ご検討いただきたい。
- ・ 7 ページ【27】に「知的財産の管理・活用のための規程を整備し…組織的な制度を構築」とある。ここでいう「組織的な制度」は、まずもって規程を指すのだと思うが、その規程の運用方法も含めて「制度」というのか。また、「構築」とあるのでいつ作るのか、ということ投げかけておきたい。
- ・ 8 ページ【34】について、指標に「岐阜市、岐阜県の審議会委員数」とあるが、これは大学の努力で増えるものだろうか。岐阜県や岐阜市から招へいを受けるものでないか。依頼に協力することは重要であるし、当然実施されると思うが、これを増やしていくという目標を掲げても、大学でコントロールできることではないように思う。これはおそらく受動的な行為であるため、もう少し能動的な行為として目標を置けるとよいと思う。
- ・ 【36】は、計画の記載には納得するが、数値指標を設定しなくてよいか。現実的に難しければ仕方がないが、設定できそうにも思うため、ご検討いただきたい。
- ・ 11 ページの「法人運営の強化に関する目標」について、適切なガバナンスを確保するための組織体制の整備として、「理事長のリーダーシップの下」とあるのは結構だと思う。他方、「内部統制システム」という言葉は学内で共有さ

れたものかお聞きしたい。いわゆる ICT に関わるシステムではないように思われるため、言葉の具体性を検討いただきたい。意見の趣旨は、理事長のリーダーシップの下、迅速な意思決定と機動的な運営をするという方向性は概ね固まりつつあり、今後はチェック機能やガバナンスを制御する機能を整備していくことになるため、ここでそれをどう設定するかが組織機構として重要なポイントとなるのではないかとということである。

- ・やや細かくて恐縮だが、同じく 11 ページの (3) について、目標に「性別や国籍、障がいの有無にとらわれない多様な人材の活躍」とあり、計画では「ダイバーシティ」という言葉で受けられているが、【49】【50】【51】では目標に対応した指標設定として十分ではないように思われるので、ご検討いただきたい。
- ・12 ページの第 4 の 1 について、ここで言う自己収入は【57】の寄附金と【58】の授業料収入の 2 本だという理解でよいか。
- ・14 ページの【63】について、「広報媒体を選択しながら…国内外に伝わるように発信」とある趣旨はよくわかるが、このような表現だと進捗のチェックや評価ができなくなる。どのような広報媒体を指しているかや、広報媒体のチャンネルが広がっているかなど、進捗している状態を定性的でもよいので表現できるような指標にする必要があるのではないか。

○原学長

- ・第 4 の 1 で言う自己収入については、市の交付金以外は基本的に自己収入という考え方であり、今仰った寄附金や授業料収入の他に共同研究費や助成金などが自己収入となる。自己収入の確保は大切であると考えている。

○田中大学改革推進室長

- ・寄附金と授業料以外の自己収入についての計画は、次頁に再掲の形で記載している。

○加藤委員長

- ・承知した。

○原学長

- ・多くのご指摘を頂いたので真摯に検討し、反映すべきものこのままとするものを精査して次回ご説明したい。

○加藤委員長

- ・他にご意見がないようであれば、本日出された意見をひとまず引き取ってご検討いただければと思う。

3 閉会

○田中大学改革推進室長

- ・活発なご議論に感謝申し上げます。ご意見は薬大における検討はもちろん、岐阜市としてもこれを認可する責任があるため、双方でしっかり議論してどのように受け止めるか考えていきたい。
- ・次回は、指標の具体的な数値や、収支計画等の本日作成中としていた部分についても記載し、全体を揃えた形でご審議いただきたい。また、岐阜市公立大学法人の役員報酬の支給基準の案についてもご意見を伺いたい。
- ・次回会議は1月後半の予定。また日程を調整してご案内する。